



かいっぶり

長浜北星高校 人権通信 No.6 2015年12月1日

12月10日は、世界人権デー 12/4~10 人権週間

1948年12月10日 国連総会において「世界人権宣言」採択

人は、ひとりでは生きていけません。私たちはみな、たがいに助けあって生きています。けれどまた、人は自分のしたいことをするために、たがいに押さえつけあい、傷つけあい、ときには殺しさえる生きものです。でも、地球はひとつです。わたしたちは力をあわせて、いっしょに生きていかなければなりません。そのためには、たがいに何を守らねばならないか。そのことを言葉にしたのが『世界人権宣言』です。

第13条 「どこにでも住める」

わたしたちはみな、いまいる国のどこへでも行けるし、どこにでも住めます。別の国にも行けるし、また自分の国にもどることも自由にできます。

第14条 「逃げるのも自由」

誰でも、ひどい目にあったら、よその国に救いを求めて逃げていけます。しかし、その人が、誰がみても罪を犯している場合は別です。

第15条 「どこの国がいい？」

人には、ある国の国民になる権利があり、またよその国の国民になる権利もあります。その権利を好き勝手にとりあげられることはありません。

世界人権宣言は全部で30条あります。上の条文は、谷川俊太郎らが原文を易しく翻訳したものです。

人権宣言から67年経った現在の世界では、パリ同時多発テロが起これ、IS（イスラム国）が犯人だということで、フランス軍などがISの拠点があるイラクやシリアに報復の空爆を行なっています。しかし、空爆などの攻撃は、犯人以外の一般人が犠牲になったり、一般の施設が破壊されるという事実もあります。攻撃と破壊は多くの難民（戦争などで国外に逃れた人々）をうみ、今、何十万人という難民がヨーロッパにあふれています。難民は保護しなければなりません（世界人権宣言第14条&難民条約）。しかし、同じ被害者である難民がテロ予備軍とみなされ、受け入れを拒否されているという現実も生み出されています。

テロはまったく許されるものではありません。問題はテロの原因をどう見て、どう対処するかです。ここにも冷静で広い視野からの人権の視点が大切になります。何が正義なのか、何が人道なのか、みなさんも一度考えてみて下さい。

「我々は過去の経験から知っている・・・軍事介入はテロを根絶するのではなく、テロの土壌をつくってしまう」

（ドビルバン：元フランス首相）

「君たちに憎しみという贈り物はあげない。君たちの望み通りに怒りで応じることは、君たちと同じ無知に屈することになる」
（今回のパリのテロで妻を亡くした男性の文章。フェイスブックで世界に流れた。）

選択できるのは１回目だけ

「薬物依存症の怖さ」

～“びわこダルク”の猪瀬氏語る～

薬物を使うか使わないかの選択の自由があるのは、最初の１回目だけである。１度使うと1000回使うのと同じで、薬物の奴隷と化し、人格も身体もむしばまれる！

そして薬物は、健康も恋人も自由も奪い、周囲の人を巻き込んで不幸にする。

11月26日（木）の「3年人権LHR」で、びわこダルクの猪瀬健夫氏の講演がありました。薬物（シンナー・危険ドラッグ）や覚醒剤と聞いて自分には関係のない世界と感じるのは、ある意味健全な感覚だと思います。しかし、薬物依存症の若者は増えていて、びわこダルクでも、近江八幡や彦根などの患者はいると言います。また、日常の中に薬物の誘惑がしのび寄ってくる場面も多いということです。

自分だけでなく周囲の人も巻き込んで、どん底に引きずり落とす薬物に対してキッパリと“NO”の姿勢を貫いてください！

もしも知り合いなどで薬物で困っている人がいたら、びわこダルクに相談してみてもいいですか。インターネットで「びわこダルク」と入れたらホームページにアクセスできます。

～猪瀬氏の言葉～

「麻薬の入り口はタバコ。麻薬と同じ“吸う行為”である。」

「薬物依存は愛の力では治らない。インフルエンザが愛の力で治らないように。」

「女の子の相談は苦手。水谷（夜回り先生）に任せている。僕は男ならヤクザでも不良でも誰でも引き受ける。」

「薬を使って幸せになった人はどこにもいない。」

「自分自身が不良仲間になめられないようにシンナーに手を出した。自分ではコントロールできると思っていた。しかし、薬物とはコントロールできないものだ。」

「シンナーを吸うことで人の持っている胆力（辛いことに耐える力）がなくなり、すべてが面倒でしんどくなってしまう。そして吸わないではいられなくなる。」

「ダメなものを使ったらそれが乱用だ。理由があっても禁止されているのに、僕は大人の言うことが信じられず自分で人体実験してしまった。それは自分の未来を差し出すことだ。」

「きっかけは人に勧められてだが、その時にNOと言えないといけない。その時が唯一選択できる機会だ。１度使うと1000回使うのと同じでのめり込んでしまう。そして薬物の奴隷と化し、人格も身体もむしばまれ、未来を失う。」

びわこダルク

民間の薬物依存回復施設。ダルク（DARC）とは、Drug Addiction Rehabilitation Centerの頭文字。

大津市丸の内町8-9 施設長 猪瀬健夫氏

